

シナイ通信

第48号

令和8年6月30日

NPO法人 シナイモツゴ郷の会



TEL 090-1377-2844

MAIL kiyotaka.totosh@gmail.com

WEB <https://www.shinaimotsugo.com>

〒989-4102 宮城県大崎市

鹿島台木間塚字小谷地 504-1

鹿島台公民館内



目 次

ページ

【表紙】 鳴瀬川中州周辺の浅瀬を寝ぐらにするハクチョウ、およそ 400 羽の群れ。日中は旧品井沼等の水田で落ち穂などを食べる。2 月中旬に北へ旅立った。

撮影：2026 年 2 月 1 日午前 6 時 16 分 高橋清孝

表紙

2026 年上期（1～6 月）の活動報告

高橋清孝

2～3

アメリカザリガニ連続捕獲装置の改良

アメザリゾロゾロとコザリゾロゾロで低密度管理実現へ

高橋清孝

3-4

2026 年水辺の自然再生ミニシンポジウム

事務局

4-7

令和 8 年度総会開催

浅野功

7-8

令和 8 年シナイモツゴ郷の会移動研修会

安部寛

8-9

古川黎明中学校・高等学校大崎耕土フィールドワーク

菊地雄一

9-10

令和 8 年度シナイモツゴ・ゼニタナゴの飼育開始式

菊地雄一

10-11

水辺の仲間たちーその 32ー変遷する魚種名（標準和名）

長谷川政智

12

シナイモツゴ BCC 通信の紹介

事務局

13

世界農業遺産「大崎耕土」と連携し
大崎市天然記念物シナイモツゴ・ゼニタナゴを守ろう
シナイモツゴ・ゼニタナゴ里親制度を再構築
生息池保全の啓発と取り組みの強化により次世代へ継承

2026 年度上期の活動（1～6 月）

大崎市天然記念物の指定と保全戦略の軌道修正

2025 年 9 月にシナイモツゴとゼニタナゴが生息する旧品井沼周辺ため池群（図 1）が大崎市天然記念物に指定されました。天然記念物は現状維持が原則であり、放流などにより現状変更することは原則として認められません。このため、当会の方針をこれまでの「生息池の増大」から「生息池の保全」へ軌道修正することになりました。

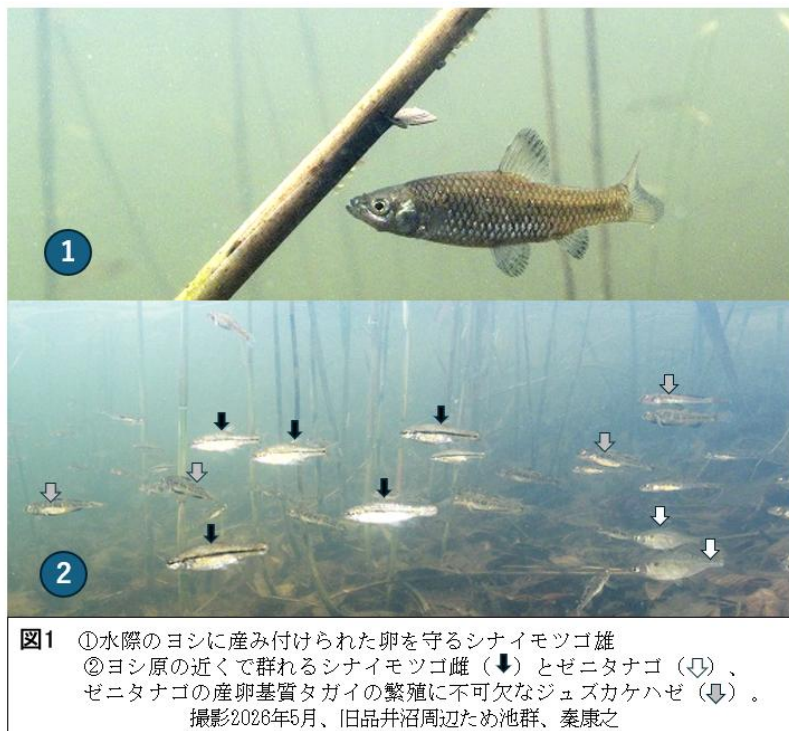
一方、2004 年開始のシナイモツゴ里親制度では、県内 4 小学校と 2 企業に委嘱して、校庭池や水槽などでシナイモツゴ稚魚を飼育し、ブラックバスを駆除したため池へ放流してきました。里親会員の尽力により 22 年間稚魚の飼育・放流を継続した結果、開始時の生息池は 2 か所だけでしたが、2025 年までに生息池を 7 か所へ増やし、長期保全する上で十分な生息池を確保できました。

これらの事から、ため池へのシナイモツゴの放流を一旦終了し、今後は、生息池を保全し、豊かな自然を長期にわたり維持する取り組みを強化することになりました。

今後の主な取り組み

保全の必要性を広範かつ積極的に PR し理解してもらいながら、保全するための取り組みを強化します。具体的にはブラックバスを退治したため池へのシナイモツゴ稚魚の放流を終了し、アメリカザリガニ防除や二枚貝の保全など生息環境の維持と改善が主な活動になります。

特にゼニタナゴは現在増加傾向にあるものの、産卵基質のタガイ（二枚貝）のへい死が多く見られることから、産卵基質の消滅による全滅リスクにさらされています。リスクを軽減するためには、アメリカザリガニの低密度化と保護ネットの敷設などにより、タガイの増殖を促し繁殖を安定化する必要があります。



「シナイモツゴ・ゼニタナゴ里親制度」の構築

このためには、マンパワーと活動資金の確保が不可欠であり、一般市民の理解を深めて広範に支援していただき、同時に後継者を育成する必要があります。その一環として、シナイモツゴ・ゼニタナゴの飼育水槽を公的な場所へ展示し、図 1 のような旧品井沼周辺ため池群の豊かな自然を、両種の水槽飼育により再現し、多くの方々に観察していただければと考えています。

また、大地震など天災の発生や外来種の侵入により、ため池群のシナイモツゴやゼニタナゴが全滅した場合でも、里親と当会が数か所で水槽飼育中の親魚を提供することにより、復元に貢献可能と考えられます。

なお、シナイモツゴ・ゼニタナゴ里親制度規約により、ゼニタナゴについては、毎年、里親へ飼育を委嘱し、その際に 1 年間育てたゼニタナゴを当会へ返却していただき、当会が引き続き飼育することになっています。

里親小学校などヘシナイモツゴ・ゼニタナゴの飼育を委嘱

6月に鹿島台小学校ヘシナイモツゴ・ゼニタナゴの水槽飼育を委嘱しました



(写真)。7～9月に、県内3校（鳴瀬桜華小、小牛田小、開北小）、鹿島台公民館、企業（ケミコン東日本、大和リース）に両種の飼育を委嘱する予定です。

アメリカザリガニ防除 5月から活動本格化

旧品井沼周辺ため池群の2か所のため池でアメリカザリガニの防除活動を5月から本格的に実施しています。

2026年水辺の自然再生シンポジウム開催 秋産卵タナゴ類保全とアメリカザリガニ対策が主題

2026年水辺の自然再生シンポジウムを11月7日（土）に東京環境工科専門学校（東京、錦糸町）で、秋産卵タナゴ類保全策とアメリカザリガニ防除による復元効果をメインテーマとして開催します。10月上旬に当会 URL で次第を公表しますので、是非、ご参加ください。

アメリカザリガニ連続捕獲装置の改良 アメザリゾロゾロとコザリゾロゾロで低密度管理実現へ

シナイモツゴ郷の会 高橋清孝

当会が2019年に開発したアメリカザリガニ簡易型連続捕獲装置によりだれでも簡単に大量捕獲し、低密度化と低密度管理ができるようになりました。

アメザリゾロゾロ；大型ザリガニ捕獲用の従来型連続捕獲装置は長さ1.5m、重さ2.5kgと大型です（写真①）。このため、操作性の向上とコストダウンを目的に、長さ1.0m、重さ1.2kgに小型化した（写真②）。2025年に実証実験したところ、捕獲数量が従来型に比べ1.5～2倍に向上することがわかりました。今年も中規模ため池（2,000m²）で捕獲実験を実施した結果、設置2週目から従来型の1.5～2倍を捕獲し、捕獲効果を再確認できました（図1）。しかし、2週間以上設置し入網数が増加した



際に、暗室の高密度メッシュが食い破られることがあったので、暗室に2mm ネットを被せ二重にして補強し、被害の発生を防止しました。また、明室は小型化によりスプリング等金属部分の消耗が激しいため、暗室との接続部に直径15mm チューブのリングを設置し暗室アナゴカゴと数本の結束バンドで明室を固定しました。これにより、明室アナゴカゴの交換をだれでも簡単に短時間でできるようになりました。現在、アメザリゾロゾロの名称で全国へ実費提供しています。なお、アメリカザリガニが高密度で生息する水域で防除を開始する際は、大型ザリガニが100頭/基前後入網することが多いので、従来型連続捕獲装置が適しています。

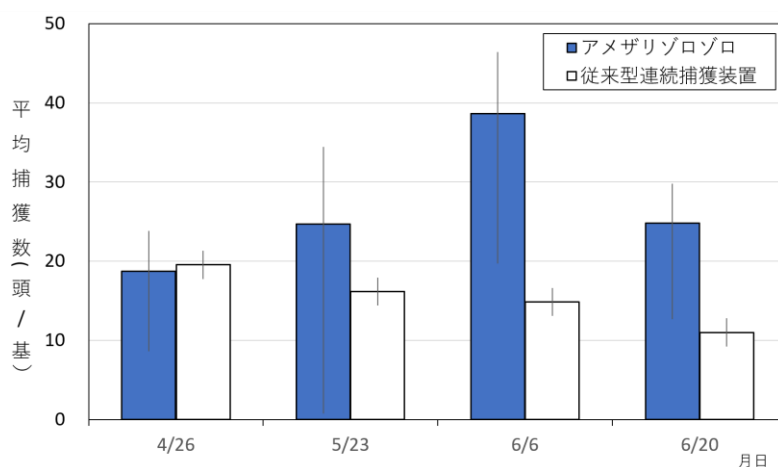


図1 大型ザリガニ捕獲用アメザリゾロゾロと連続捕獲装置(従来型)による平均捕獲数の推移 2026年4～6月 中規模ため池

コザリゾロゾロ:これまで餌トラ

ップにより全長 7cm (頭胸甲長 3cm) 以下の小型個体を大量捕獲することは非常に困難でした。原因としてアナゴカゴの網目が大きいので入網した小型ザリガニが脱出してしまおうと説明されてきました。

しかし、高密度メッシュアナゴカゴを使用して入網ザリガニの脱出を防いでも解決できませんでした。さらに、温暖化に伴う気温上昇に伴い、亜熱帯原産のアメリカザリガニは繁殖力を増しており、小型ザリガニは確実に増加しています。このため、2022 年にトラップ入口へネットを設置して大型ザリガニの侵入を阻むことにより小型ザリガニだけを選択的に捕獲する小型ザリガニ専用トラップを開発し、一定数の小型ザリガニを捕獲できるようになりました (写真③)。さらに、2025 年には小型ザリガニ用連続捕獲装置コザリゾロゾロを開発し、小型ザリガニの大量捕獲を実現しました (写真④)。2026 年には保全池でコザリゾロゾロを倍増して設置し実証実験を行い、高い捕獲性能を再確認しました (図 2)。

この中で、暗室の適正な容積を検討するため、暗室の容積を 20% 拡大したアメザリゾロゾロを作成し捕獲試験を行いました。しかし、捕獲数の改善は認められなかったため、今後も 2025 年型を基本型として継続することになりました。アメリカザリガニは気温上昇により繁殖力を増していますが、従来型連続捕獲装置やアメザリゾロゾロと併せてコザリゾロゾロを同時使用することにより低密度化を実現しやすくし低密度管理の長期継続を可能にすると考えています。アメリカザリガニの蟄集範囲を考慮しアメザリゾロゾロ等大型ザリガニ用連続捕獲装置の設置間隔は 20~30m が適しており、コザリゾロゾロはアメザリゾロゾロなどから 5m 程度の位置に近接して設置することにより捕獲効果を高めることができます。

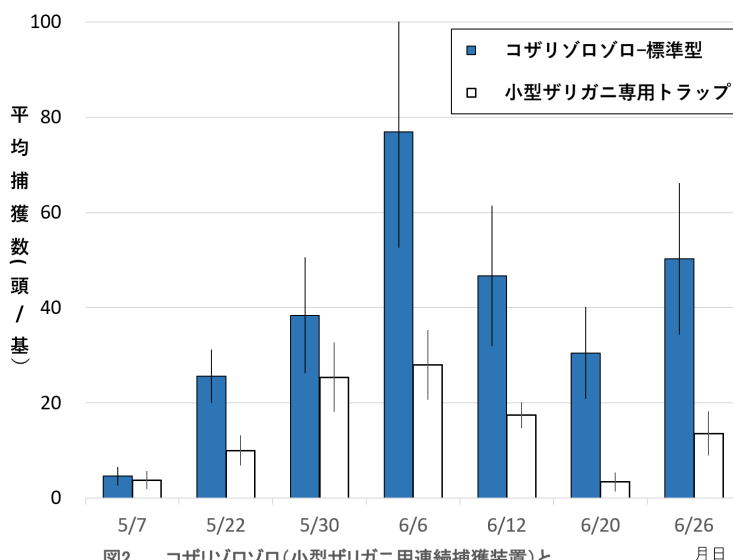


図2 コザリゾロゾロ(小型ザリガニ用連続捕獲装置)と小型ザリガニ専用トラップ(従来型)による平均捕獲数の推移
大規模ため池、2026年5~6月

水辺の自然再生ミニシンポジウム・地域研修会開催

里山里地水辺の自然再生と保全活動-外来種防除による里山ため池群の自然再生戦略

会場 尾根会館* (大崎市鹿島台平渡字上戸下27-6)

期日 2026年2月14日 (土) 14:30~17:15

主催 NPO法人シナイモツゴ郷の会、旧品井沼周辺ため池群里山未来拠点協議会



次 第

趣旨説明

外来種を防除しゼニタナゴ・シナイモツゴ等希少種を守ろう

根元信一（シナイモツゴ郷の会）

講 演

1. 里山ため池群の自然再生実証実験、成果と保全計画

高橋清孝（シナイモツゴ郷の会）

2. 人工水草で簡単化！極小ザリガニ捕獲と復元生物のモニタリング

長谷川政智・高橋清孝（シナイモツゴ郷の会）

3. 水生植物の復元を目指して 埋土種子の発芽試験の成果と今後の課題

早坂史郎（南郷高校）

4. 大崎耕土の自然共生サイトの紹介-特に沢田上地区の居久根・周辺水田について大崎市の取り組み

三宅源行（大崎市世界農業遺産未来戦略推進室）

5. 実物展示

菊地雄一・宮路憲昭・小野寺六郎・長谷川政智・高橋清孝（シナイモツゴ郷の会）

1) 新開発！これまで捕獲できなかった小型ザリガニを新たな連続捕獲装置で大量捕獲

小型ザリガニ連続捕獲装置：「こんなにいたのか？？」小型ザリガニが驚くほど捕れた

2) 大改造！大・中型ザリガニ用連続捕獲装置を小型軽量化

軽くて簡単、捕獲性能が大幅に向上、低密度管理に最適

3) 試食会！小型ザリガニビスクープ：未利用の小型ザリガニを高級食品へ、地元のマルヒ食

品・南郷高校・宮城水産高と連携し、塩水飼育小型ザリガニのスープをレトルト化、試験販売を計画中

6. 子供たちと共に米作りする田んぼの学校のノウハウ

船橋玲二（NPOたんぼ）

7. 二枚貝研究成果と保全の展望

東北大学 馬場雄司

【開催趣旨】

当会は、地域の方々と連携して2002年からブラックバスとアメリカザリガニ退治を続け、里山のため池にしか生息できない貴重な生き物を守ってきました。鹿島台地区の里山ため池では絶滅寸前だったゼニタナゴ、シナイモツゴ、トンボ類ヤゴなど多くの生き物が復活し、これらを現場で間近に観察し、復元しつつある豊かな自然を実感できるようになりました（写真）。保全対象の「旧品井沼周辺ため池群」は2024年3月に環境省「自然共生サイト」に登録、アメリカザリガニについては、2023年6月に条件付特定外来生物に指定、希少な魚類は2024年2月に種の保存法の改正によりゼニタナゴが国内希少野生動植物種特定第一種（動物では初めて）、シナイモツゴが特定第二種に指定、さらに、2025年9月にゼニタナゴとシナイモツゴの生息池が大崎市天然記念物に指定されました。これらの制度改革や法律改正を受け、本シンポジウムなどで協議しながら、行政機関、地域の方々、大学、学校、企業と連携して、ため池群の希少種保全と取り組んで行きたいと考えています。2023～2025年に旧品井沼周辺ため池群の豊かな自然の復元と保全を目的にアメリカザリガニ防除に関する技術開発と取り組んできましたので、その成果を報告し今後の取り組みについて議論します。さらに、当会会員の若手研究者からも、成果発表をいただき、情報・意見交換できればと考えています。

【総合討論】

座長 高橋 清孝

質疑

三塚氏（なまずの学校）：以前はカラスガイやドブガイ等 20センチ台の二枚貝がいっぱい見受けられたが、今は全く消滅した。何が原因なのか教えていただきたい。

馬場氏（東北大学）：ため池であれば、人の手が入らなくなったことによる水質悪化、水路では三面コンクリート化などの環境変化が大きな原因だと思います。

三塚氏：ため池では水質悪化以外の要因もあると思う。県北部のため池では二枚貝が工事後に全滅し、ゼニタナゴが全滅したことがある。最近、影響が大きいと言われている農薬について、教えてほ

しい。

馬場氏：まず農薬に関しては、特にネオニコチノイド系の水田で使う農薬が、貝類など軟体動物にかなりマイナスの影響があるということが調べられている。他の二枚貝へい死原因としては、酸素欠乏や二枚貝が繁殖する際に寄生する魚類の生息量不足等が考えられる。

座長：二枚貝が繁殖するには、低農薬、酸素量、寄生種の存在などハードルを全て越えなければならず、全国的にタナゴ類が減少している原因になっています。これらのハードルを乗り越えるための技術開発が必要と考えています。

鈴木氏（宮城県栗原地域事務所）：シナイモツゴ郷の会ではゼニタナゴ等を守るためにアメリカザリガニ駆除しているが、ブラックバスの脅威と対策についての考えを聞かせ下さい。

座長：そもそも、シナイモツゴ郷の会が結成されたのはブラックバス対策を行うためです。1993年にシナモツゴとゼニタナゴが発見されたが、1995年以降、バス釣り人が周辺ため池へ来るようになり、2000年までに大半のため池へバスが放流され、シナモツゴ生息池の一つにもバスが放されてしまいました。そのまま放置したら、シナモツゴとゼニタナゴが全滅することは明らかだったので、何とかしようということになり2002年に結成されました。その後、農業者の方々と共に、一つ一つため池の池干しをして駆除しました。シナイモツゴ郷の米づくり手の会等農業者との連携のもとに全域で十年以上かけ、池干しを行い、周辺ため池群からバスを一掃することができました。同様に伊豆沼周辺のため池では三塚さんが中心になって30箇所以上のため池で完全駆除して、ブラックバスを駆除しました。伊豆沼におけるブラックバス退治とゼニタナゴ復元の原動力になったと思います。

座長：シナイモツゴ郷の米づくり手の会の担い手が高齢化などにより郷の米の生産、販売を取りやめることになりました。大変残念なことです。吉田会長からコメントをお願いします。

吉田氏（シナイモツゴ郷の米作り手の会）：シナイモツゴ郷の米の生産体制を今日まで築いてきた中で、18年の年月が過ぎております。シナイモツゴ郷の米の基準として、第一点はシナイモツゴ生息池の水を使うこと。第二点は、生活雑排水が入らない田んぼで環境保全米（半農薬・半化学肥料）の基準を満たして生産することです。学校給食の米として提供するようになってから10年以上、子どもたちに安心安全の米を美味しいものを食べてもらいました。

ここ2年ほど、地球温暖化の関係で夏場の温度が極端に高くなり、高温障害により米の品質に影響が出ています。昨年度は、少雨による深刻な用水不足で乳白米が発生しました。さらに、長期の気温上昇により、カメムシが大発生して斑点米が増加しました。これらを選別し除去した結果、収量が大幅に減少しました。特に、中山間地におけるカメムシ対策はとても困難であり、高齢化により生産体制の維持が難しくなりました。本当に残念ですが、自分たちの生活、あるいは地域を守るための一つの方策であろうということで、今回こういった決断をさせていただきました。いろいろな関わりの中で、協力できることについては、また協力していきたいと思いますので、今回の郷の米の生産中止についてご理解をお願いしたいと思います。

座長：シナイモツゴ郷の米づくり手の会の方々が中心になって10年以上にわたってブラックバス退治を進めていただき、里山からバスを一掃することができました。私らにとって恩人であります。大変、残念ですが、やめざるを得ないという状況を、皆さんご理解いただければと思います。私達は、今後も後継者である子供たちとのつながりを重視し、シナイモツゴ・ゼニタナゴ里親制度、小川の生き物調査、アメリカザリガニ退治への参加など、いろいろな形で地域と連携していきたいと考えています。

連携機関の大崎市から助言などありましたらお願いします。

三宅氏（大崎市）：はい。大崎市役所の三宅です。シナイモツゴ郷の会は、長年にわたって、ため池で生息する魚類の保全活動に携わってこられました。その成果があって、令和5年度に、シナイモツゴとゼニタナゴが生息するため池群が国の保護区である自然共生サイトに、令和7年度大崎市指定天然記念物に指定されました。世界農業遺産未来戦略室では所管の自然共生サイトについて、地域の方に結びつけていきたいと思っております。よろしくお願いします。

座長：ありがとうございます。南郷高校の早坂先生には水生植物の復元ということで貴重なご報告をいただきました。

早坂氏（南郷高校）：植物復元についてどういうところをゴールとして目指すのかが重要です。復元計画をビジョンとして作ることが大事と考えています。

古いため池を維持させるという意味では、ある程度水位を変動させることができれば一番いいのかなと思っております。関係者の方々と相談しながら検討していきたいと思っております。

座長：どうもありがとうございます。アメリカザリガニを防除している全国各地の保全池で一部の在来水生植物が復元しつつあり、もう一步のところでいろいろな展開ができるという段階に入っています。多様な植物を復元するためには、アメリカザリガニの生息密度をもう一段低密度化する必要があります。それまでは、復元可能な在来植物種を探すと共に、それらを復元するビジョンを考えながら栽培方法を試す必要があると思います。今後も、意見交換させていただきながら、考えていきたいと思っています。

早川氏（イデア）：大崎市で民間企業とのマッチングのイベントをやられてるとのことですが、具体的にお伺いしたいと思います。

三宅氏：昨日、市役所で「おおさき GIAHS・SDGs パートナー」研修会を開催し、大崎の農業遺産の拠点につながるような団体、企業、個人、学校、計 58 団体が参加し、マッチングを目的とした情報交換を行いました。

座長：どなたか最後の質問・発言ということでお受けしたいと思います。

長谷川氏（シナイモツゴ郷の会）：二枚貝の中に、ミナミタガイとキタタガイと二種類があります。これらは交雑するのか、教えていただきたい。

馬場氏：まだ、交雑に関する研究は無いようです。

座長：最後に南先生（元東北大学教授）に、感想をお願いします。

南氏（元東北大学農学部教授）：今回の多岐にわたる活動の記録と成果について、興味深く聞かせていただきました。活動が一年一年進化している様子を十分に感じることができました。ここ 3 年ほど参加していますが、多様な個別の課題の間で結びついて、活動が進んでいるように感じられました。ため池と農業には複雑な相互関係があり、両者を守っていくことによって、それぞれの機能が十分に働き拡大していくことになったという、印象を受けています。個々の課題研究により、自然環境と産業など生活環境に関わる両者の相互関係について包括的な取り組みをこの会が進めているという印象を受けました。

私の社会的な仕事は海の漁業ですが、その中で沿岸のいわゆる小さな漁業の役割が非常に大きいことを知りました。陸上における基本は農業であり、特に小規模の生産者は絶対守っていかなければならない。本来はそのことを国が農業政策と水産業政策に位置付けるべきです。現段階では、小さなユニットを守るのは、その地域の活動です。やはりそういう地域の活動を進めていってもらいたいし、私自身もそういった観点で参加していきたいと思っています。

座長：非常に前向きのご感想をいただき、ありがとうございます。私たちが個々に取り組んでいることは、点のような小さな物ですが、みんなが集まって、情報・意見交換しながら取り組んでいけば、線になり、面になるのではないかと常々思っています。これからも皆さんよろしくお願いします。今日はどうもありがとうございました。

令和 8 年度総会開催

浅野 功

会員の皆様には日頃からシナイモツゴ郷の会の活動につきまして、ご理解とご協力をいただき大変ありがとうございます。下記のとおり開催いたしましたので、総会概要についてお知らせいたします。

記

- 1 開催期日と場所 令和 8 年 2 月 14 日（土） 大崎市鹿島台 尾碓会館
- 2 出席状況 会員総数 45 名の内、40 名（内委任状 17 名）の出席となり総会成立
- 3 議案審議について
 - 1 号議案 令和 7 年度事業報告と収支決算報告
 - 2 号議案 令和 8 年度事業計画案と予算案
 - 3 号議案 助成金獲得などに伴う予算案の変更の取り扱いについて
 - 4 号議案 融資限度額について
 - 5 号議案 役員改選について

主な審議内容

- 1) 令和 7 年度事業報告と収支決算及び令和 8 年度事業計画と予算案について

なお、事業等についてはシナイ通信等ご覧いただきます。

・令和7年度収支決算額		・令和8年度収支予算額	
収入額	7,017,111円		3,877,000円
支出額	5,700,528円		3,877,000円
(内事業費	5,502,086円)		(3,160,000円)
残 額	1,316,583円 (8年度へ繰越)		0円

主な収入は昨年度の繰越金(169万円)、3団体からの助成金(246万円)、ザリガニ捕獲装置改良事業委託(99万円)や自然再生ツール実費提供収入(83万円)、寄付金(72万円)等で、主な支出はシナイモツゴ等保護・復元事業として(49万円)、外来種対策事業(127万円)や自然再生ツール実費提供事業(88万円)、啓発宣伝事業(117万円)、関係機関団体連携事業(112万円)等に経費を支出しました。なお、当会の事業期間は1～12月だが、助成事業の期間が4月～翌年3月であり翌年1～3月の事業費を確保するため、繰越金はやや多くなっています。

2) 役員改選について

今回は任期2年が満了し改選期に当たり理事19名、監事2名の選出が行われました。理事17名と監事は留任、欠員だった理事2名に山田匡身氏と千葉貴雄氏が選出されました。なお、理事長等の選出については定款により後日、新理事互選により理事長には高橋清孝氏、副理事長根元信一氏、副理事長長谷川政智氏が留任、欠員だった副理事長に菊地雄一氏が選出されました。

審議状況について

1) 全般にわたって意義なく原案どおり承認を受けました。

2) 2号議案の8年度事業計画について、鹿島台のため池のシナイモツゴとゼニタナゴが大崎市天然記念物に指定されたことなどから、これまでの「生息池の拡大」の方針を「生息池の保全」に方向転換したことにともない、里親小学校の取り組み内容を一部変更することを説明しました。

以上簡単ではありますが総会の様子を報告させていただきました。

令和8年シナイモツゴ郷の会移動研修会

安部 寛

5月16日、石巻市牡鹿・女川町へ向けて出発、五月晴れの中、快適な研修会となりました。会員20名が参加、最初の研修施設は宮城県石巻市鮎川にあるホエールタウンおしかです。ホエールタウンおしかは、クジラの文化や歴史について学ぶことができる施設です。

建物の中にはさまざまな展示があり、クジラについては今まで知らなかったことを知ることができました。特に印象に残ったのは、クジラの大きな骨格標本です。

実際に見ると想像以上に大きく、その迫力に驚きました。また、昔から牡鹿半島で行われてきた捕鯨の歴史についても学び、地域の文化の大切さを感じました。



【ホエールタウンおしか】

次に近くにあるおしか御番所公園に行きました。公園は高台にあり、そこから見える海や金華山の景色がとてもきれいでした。天気も良く、広々とした公園で気持ちよく過ごすことができました。

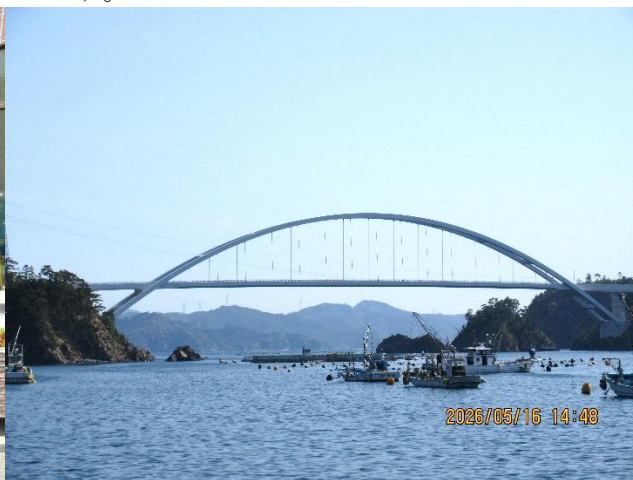
次に目指すは、東北電力女川原子力 PR センターです。原子力発電の構造など説明を受けました。女川 2 号機は東北地方で唯一稼働している原子炉であり、電力の安定供給や二酸化炭素排出削減への貢献が期待されています。一方で、安全対策や防災体制については引き続き地域住民や自治体から厳しい目が向けられています。

さらに、女川湾対岸に移動、女川町にある出島大橋を見学しました。この橋は本土と出島を結ぶ橋で、2024 年 12 月に開通した新しい橋です。橋の上からは美しい海を見渡すことができ、とても気持ちのよい景色が広がっていました。特に印象に残ったのは、橋の大きさと周囲の自然の美しさです。出島大橋は全長 364 メートルあり、海の上に大きく架かる姿はとても迫力がありました。青い海や島々の風景を楽しむことができました。

最後の目的地である女川道の駅へGO、ここで昼食です。やはり土日は混んでいます。目的の店では、待ち時間が長く集合時間に間に合わせるため、ゆっくり味わうことが出来ませんでした。来年は、山形方面を予定とのこと、楽しみにしています。



【女川原子力 PR センター】



【出島大橋】

古川黎明中学校・高等学校大崎耕土フィールドワーク

菊地 雄一

2026年6月25日に鹿島台公民館において、古川黎明中学校・高等学校生30名が大崎耕土フィールドワークの授業として、当会の活動について高橋理事長が講話しました。本来は講話と現地（ため池）見学と実習を予定していましたが、クマの出没への危惧から公民館だけでの授業となりました。

講話後、水槽でため池に生息する希少種の魚類、水性昆虫、貝類の実物展示を観察しました。

その後塩水飼育しボイルしたアメリカザリガニの試食、小型ザリガニのビスクスープを試飲しました。全員が初めて食べたので、初めは恐る恐るでしたが「おいしい！」「すごくうまい！」との声が部屋中に飛び交い、短時間で完食しました。

彼らにとっては、自分たちが住む自然豊かな大崎耕土の持つポテンシャルを感じた一日になったのではないのでしょうか。



シナイモツゴ・ゼニタナゴ里親小学校へ飼育委嘱開始式

菊地 雄一

主 催 NPO法人シナイモツゴ郷の会、大崎市立鹿島台小学校

日 時 令和8年6月25日（木）午後3時～3時30分

場 所 大崎市立鹿島台小学校校庭池

飼育を委嘱する魚類 シナイモツゴ稚魚、ゼニタナゴ稚魚

参 加 者 シナイモツゴ郷の会、鹿島台小学校、鹿島台公民館

2025年9月にゼニタナゴとシナイモツゴが大崎市の天然記念物に指定されたことを受けて、原則として生息池の現状保全を優先することになり、20年間続けてきたシナイモツゴ放流会を昨年で終了しました。今後は、これまでの里親制度を発展させ、シナイモツゴ・ゼニタナゴ里親制度として継続し、両種の保全に貢献します。今年からシナイモツゴに加えてゼニタナゴの飼育を里親に委嘱します。目的は下記の2つです。

- ①飼育を通してシナイモツゴとゼニタナゴの大切さを学び、多くの人に伝えてもらう。
- ②生息池のシナイモツゴ・ゼニタナゴが大災害などで全滅した場合、里親が飼育する両種を親魚として提供し復元する。

鹿島台小学校で、シナイモツゴとゼニタナゴ稚魚の飼育を委嘱する行事を実施しました。

《開催スケジュール》

- 1 シナイモツゴとゼニタナゴの飼育方法について説明（シナイモツゴ郷の会）
- 2 シナイモツゴ・ゼニタナゴ稚魚飼育の委嘱（シナイモツゴ郷の会から鹿小4年生へ）
シナイモツゴ10尾（水槽）とゼニタナゴ10尾（水槽）を児童に手渡し
- 3 里山ため池でよみがえった生き物たちを紹介
保全池の生き物を水槽観察しながら、それぞれの特徴について説明
シナイモツゴ、ゼニタナゴ、ギバチ、ジュズカケハゼ、ヨシノボリ、スジエビ、ヌカエビ、タガイ、トンボヤゴ3種、マメゲンゴロウ、アメリカザリガニ

4 児童の感想発表 代表児童



《経緯》

シナイモツゴ郷の会は2002年から関係団体・機関・学校と連携しシナイモツゴなど貴重な水生動物の保全活動を行っています。念願がかなって2024年に旧品井沼周辺ため池群が環境省自然共生サイトに認定され、翌2025年の種の保存法改正によりため池群に生息するゼニタナゴとシナイモツゴが国内希少野生動植物種特定第一種と第二種に指定されました。さらに、2025年9月に大崎市天然記念物としてこれまでのシナイモツゴに加えてゼニタナゴが指定されました。

1993年の再発見当時、鹿島台の生息池はシナイモツゴ2か所、ゼニタナゴ1か所でしたが、現在は、それぞれ、7か所と4か所に増加しました。これは里親小学校や地域の方々に参加いただき地域ぐるみで取り組んできた成果であり、里山ため池生態系復元のモデルとして全国的に高く評価されています。

生息池の数が増えたことにより、ため池群としての保全が可能となり絶滅リスクが、やや減少しました。一方、天然記念物は現状の保全を原則とし、特別な理由を除き現状変更が認められないことから、生息池を増やすための放流会を終了することになりました。

しかしながら、放置すれば外来種の再侵

入と増殖により両種は絶滅する可能性が高く、温暖化により生息環境が厳しさを増して繁殖が困難になりつつあります。このため、両種の保全活動の継続は必須であり、今後も下記①～④と取り組みます。①アメリカザリガニ・ブラックバスなど外来種対策、防除技術の開発 ②絶滅が最も危惧されるゼニタナゴの保全、繁殖保全のための技術開発、③里親制度による環境教育への貢献、生息域外保全、④有効活用

関係の公的機関から許可を得て、最小限のシナイモツゴとゼニタナゴを保全ため池で採取し、当会の水槽で餌付けした後、各里親に飼育を委嘱します。シナイモツゴとゼニタナゴは、繁殖や餌をめぐり競争する事がなく、野外でも混成群を形成する等、両種は品井沼など氾濫原で何万年も共存し繁栄してきました。したがって、両種を自然な形で水槽飼育することができ、それぞれの特異な生態を学ぶことにより、生態系保全の大切さを実感できると考えています。

＊現在の里親小学校と企業：大崎市立鹿島台小、美里町立小牛田小、東松島市立鳴瀬桜華小、石巻市立開北小、仙台うみの杜水族館、ケミコン東日本宮城工場、大和リース仙台支店

水辺の仲間たち —その32—

変遷する魚種名

長谷川政智(シナイモツゴ郷の会)

近年、生物の名前が変更されている事をご存じだろうか？身近なもので2012年にこれまで一般にメダカ（学名：*Oryzias latipes*）と呼ばれていたものは、ミナミメダカ（学名：*Oryzias latipes*）とキタノメダカ（学名：*Oryzias sakaizumii*）に分類され、ヌマエビと呼ばれていたものはヌマエビ大卵型とヌマエビ小卵型に分けられ、さらにヌマエビ大卵型はヌマエビ北部・中部群となりヌマエビ小卵型はヌマエビ南部群となった。それからさらにヌマエビ北部・中部群はヌカエビ（学名：*Paratya improvisa*）となり、ヌマエビ南部群はヌマエビ（学名：*Paratya compressa*）となり現在に至る。

魚類ではドジョウ（学名：*Misgurnus Anguillicaudatus*）が、北海道や東北に生息するドジョウがキタドジョウ（学名：*Misgurnus chipisaniensis*）となる。また、ドジョウの仲間のシマドジョウと呼ばれていたものは、シマドジョウ種群（学名：*Cobitis biwae* species complex）となり、オオシマドジョウ（学名：*Cobitis* sp. BIWAE type A）、ニシシマドジョウ（*Cobitis* sp. BIWAE type B）、関東・東北地方に生息するヒガシシマドジョウ（学名：*Cobitis* sp. BIWAE type C）などに分類された。

貝類では、二枚貝のタガイについては、ドブガイA型が「ヌマガイ」とドブガイB型が「タガイ」となったが、近年ではタガイがミナミタガイ（学名：*Beringiana fukuharai*）、東北日本海側に分布するキタノタガイ（学名：*Beringiana gosannensis*）、太平洋側に分布するタガイ（学名：*Sinanodonta japonica*）に分類された。

このように身近な生き物の名前も調査や研究の進歩によって変わってきている。特に保全・保護活動をする上では対象となる生物の名前が違っていればどうなるだろう。これからも保全活動が続ける上で様々な研究発表に注意をしなければいけないだろう。



写真1 ミナミメダカ



写真2 ヌカエビ



写真3 ヒガシシマドジョウ



図4 タガイ

シナイモツゴ BCC 通信 379 号

(2026 年 4 月 15 日配信)

**会員の情報共有のための配信メール（1～3 回/月）です。
受信ご希望の方はご連絡下さい。**

皆様

春爛漫を迎え、ツバメ達が飛来、水槽のシナイモツゴは大きな舌鼓を打ちながら餌を食べ始めました。

お変わりありませんか？ 野外活動を開始しますので、是非、ご参加ください。

1. アメリカザリガニ防除活動

4 月 21 日（火）9：00～ 大規模ため池（鹿島台山谷地区）

アメリカザリガニ捕獲のための準備主体に一部の池で捕獲も行います。

2025 年に実施した改良捕獲装置の実証実験では 2 タイプの装置で従来型の 2 倍以上の捕獲と装置の小型化による省力化・コストダウンに成功しました（添付ファイル参照）。

改良型の 2 タイプについては従来型と区別するため、大型ザリガニ用の軽量小型連続捕獲装置をアメザリゾロゾロ、小型ザリガニ用の改良型連続捕獲装置をコザリゾロゾロと呼び、全国的な普及を図ります。

すでに、これらは一部地域へ導入が始まっています。

調整のため、初回活動日が平日開催になりましたこと、お詫びいたします。

2. 移動研修会、参加者募集中

5 月 16 日（土）7：50～16：00

行程概略：鹿島台鎌田記念館～石巻牡鹿半島鮎川御番所公園

～ホエールランド等～女川地区出島（新橋見学）

会費（会員・賛助会員）1,000 円、交通費、保険、入場料を含む。昼食は各自負担。

3. 定例会（毎週第 3 土曜日開催）

4 月 18 日（土）18：00～ 鹿島台公民館 （毎月第 3 土曜日）

開始時間にご注意ください。

シナイはアイヌ語で大きな川（沢）を意味します。
小さな流れが大きな川になるように地道な活動を続けていきましょう。